

平成30年度科学研究費助成事業の配分について

平成31年3月29日改訂版

文部科学省研究振興局

目 次

科学研究費助成事業及び配分状況の概要	1
資料	
「Ⅰ 全体・研究種目別の状況」	
1-1-1 科研費（補助金分・基金分）配分状況一覧 （平成30年度 新規採択分）	14
1-1-2 科研費（補助金分・基金分）配分状況一覧 （平成30年度 新規採択＋継続分）	16
1-1-3 科研費（基金分）配分状況一覧 （平成30年度 新規採択分）	18
1-1-4 科研費（特設分野研究・特設審査領域）配分状況一覧 （平成30年度 新規採択分）	19
1-2 ①特別推進研究 新規課題一覧	20
②新学術領域研究（研究領域提案型） 採択研究領域一覧	21
③基盤研究（S） 新規課題一覧	22
「Ⅱ 研究者の属性別の状況」	
2-1 男女別 配分状況（平成30年度 新規採択分）	26
2-2 年齢別 配分状況（平成30年度 新規採択分）	27
「Ⅲ 研究機関別の状況」	
3-1-1 研究者が所属する研究機関種別 配分状況 （平成30年度 新規採択分）	28
3-1-2 研究者が所属する研究機関種別 配分状況 （平成30年度 新規採択＋継続分）	29
3-2 研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分額一覧 （平成30年度）	30
3-3 研究者が所属する研究機関別 採択率 上位30機関 （平成30年度 新規採択分）	46
3-4 研究者が所属する研究機関別 女性比率 上位30機関 （平成30年度 新規採択＋継続分）	47
3-5 研究者が所属する研究機関別 40歳未満比率 上位30機関 （平成30年度 新規採択＋継続分）	48
「Ⅳ 審査区分別の状況」	
4-1 大区分・中区分別 配分状況（平成30年度 新規採択分）	49
4-2 中区分別採択件数上位10機関	51

科学研究費助成事業及び配分状況の概要

- 科学研究費助成事業は、人文学・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究（研究者の自由な発想に基づく研究）」を対象とする「競争的資金」です。

専門分野の近い複数の研究者による審査である「ピアレビュー」という方式によって、(独)日本学術振興会を中心とした審査を経て、その配分が決定されています。

- 科学研究費助成事業には、助成内容、研究期間、助成規模により、様々な応募区分（研究種目等）が設定されています（表1）。
- 本「概要」では、科学研究費助成事業のなかでも、研究者個人や複数の研究者のグループによる研究を対象としている主な研究種目（※）について、その新規採択状況を中心にポイントを紹介します。

※ 科学研究費助成事業の研究種目のうち、「特別推進研究」、「新学術領域研究（研究領域提案型）」（計画研究及び公募研究）、「基盤研究」（特設分野研究を除く）、「挑戦的研究」（特設審査領域を除く）、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））」。

【表 1 科学研究費助成事業における研究種目等】

研究種目等	研究種目等の内容・目的
科学研究費	
特別推進研究	新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究であって、格段に優れた研究成果が期待される一人又は比較的少人数の研究者で行う研究 (期間3～5年(真に必要な場合は最長7年間まで)、1課題 2億円以上5億円まで(真に必要な場合には、5億円を超える応募も可能))
新学術領域研究 ※	(研究領域提案型) 多様な研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成、設備の共用化等の取組を通じて発展させる (期間5年、1領域単年度当たり 1,000万円～3億円程度を原則とする)
基盤研究 (S)	1人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究 (期間原則5年、1課題 5,000万円以上2億円以下)
基盤研究 (A・B・C)	1人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究 (期間3～5年、応募額によりA・B・Cに区分) (A) 2,000万円以上 5,000万円以下 (B) 500万円以上 2,000万円以下 ☆ (C) 500万円以下
挑戦的萌芽研究 ☆	【平成28年度公募分まで】 独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究 (期間1～3年、1課題 500万円以下)
挑戦的研究 (開拓・萌芽)	1人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究 なお、(萌芽)については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究も対象とする (開拓) 3～6年間 500万円以上 2,000万円以下 ☆ (萌芽) 2～3年間 500万円以下
若手研究 (A・B)	【平成29年度公募分まで】 39歳以下の研究者が1人で行う研究 (期間2～4年、応募総額によりA・Bに区分) (A) 500万円以上3,000万円以下 ☆ (B) 500万円以下
若手研究 ☆	【平成30年度公募以降】 博士の学位取得後8年未満の研究者(※)が1人で行う研究 なお、経過措置として39歳以下の博士の学位を未取得の研究者が1人で行う研究も対象 (※) 博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む (期間2～4年、1課題 500万円以下)
研究活動スタート支援	研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰する研究者等が1人で行う研究 (期間2年以内、単年度当たり150万円以下)
奨励研究	教育・研究機関や企業等に所属する者で、学術の振興に寄与する研究を行っている者が1人で行う研究(期間1年、1課題 10万円以上100万円以下)
特別研究促進費 ※	緊急かつ重要な研究課題の助成
研究成果公開促進費	
研究成果公开发表	学会等による学術的価値が高い研究成果の社会への公開や国際発信の助成
国際情報発信強化	学協会等の学術団体等が学術の国際交流に資するため、更なる国際情報発信の強化を行う取組への助成
学術図書	個人又は研究者グループ等が、学術研究の成果を公開するために刊行する学術図書の助成
データベース	個人又は研究者グループ等が作成するデータベースで、公開利用を目的とするものの助成
特別研究員奨励費	日本学術振興会特別研究員(外国人特別研究員を含む。)が行う研究の助成 (期間3年以内)
国際共同研究加速基金 ☆	
国際共同研究強化 (A)	科研費に採択された研究者が、半年から1年程度海外の大学や研究機関で行う国際共同研究(1,200万円以下)
国際共同研究強化 (B)	複数の日本側研究者と海外の研究機関に所属する研究者との国際共同研究。学術研究の発展とともに、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化、国際的に活躍できる研究者の養成も目指す (期間3～6年間 2,000万円以下)
国際活動支援班 ※	新学術領域研究における国際活動支援への助成(領域の設定期間 単年度当たり1,500万円以下) ※平成30年度公募以降、国際活動支援班を新学術領域研究の総括班に組み込んで公募
帰国発展研究	海外の日本人研究者の帰国後に予定される研究(期間3年以内、5,000万円以下)
特設分野研究基金 ☆★	最新の学術動向を踏まえ、基盤研究(B)(C)に特設分野を設定(応募年度により応募可能な研究期間が異なる。) ※平成30年度公募以降、新規分野の設定を停止

(注1) ※印の研究種目等の審査は、文部科学省が実施。

(注2) ☆印の研究種目等は、基金により実施。

(注3) ★印の研究種目等は、平成30年度は、平成28年度、平成29年度に設定した6分野で公募。

(I) 全体・研究種目別の状況について（資料1）

<応募・採択状況>

○ 平成30年度の主な研究種目の新規応募件数は10万3,672件で、前年度よりも(2,425件(2.4%))増加しており、過去最高となっています。なお、新規応募件数は長期にわたり増加傾向(年率2.3%(過去7年平均))が続いています。新規採択件数は2万5,796件で、前年度よりも483件(1.9%)増加し、新規採択率(※1)は24.9%となっています(図1)。なお、継続分を含めた採択件数全体は、7万5,095件となっています。

○ 学術研究の多様性を支え、裾野を広げていく要となるのが「基盤研究(C)」や「若手研究」です。「基盤研究(C)」は前年度と比較して応募件数が大幅増(3,101件(7.7%)増)となったため、新規採択率は27.9%と昨年度からは下がりましたが、新規採択件数は192件(1.6%)増となっています。「若手研究」は従来の若手研究(A)を基盤研究に統合したことに伴い「若手研究(B)」から名称変更したものですが、新規採択率は30.7%と政策目標の30%は確保しています。

○ なお、平成29年度に創設した「挑戦的研究」(※2)は、政策目標の新規採択率30%に捕らわれず、研究種目の趣旨に沿った研究課題を厳選して採択しており(新規採択率11.9%)、当該研究種目を除くと、平成30年度の新規採択率は26.7%(※3)となります。

※1 新規採択率とは、新規採択件数／新規応募件数。第5期科学技術基本計画(平成28～32年度)の政策目標は30%。科研費改革の実施に当たり、改革の基本的な考え方として、「科研費の充実・強化に当たっては、それぞれの研究種目の性質や個々の計画への適切な配分(充足率等)に留意しつつ、新規採択率の全体目標(30%)の達成を目指す。」としている。

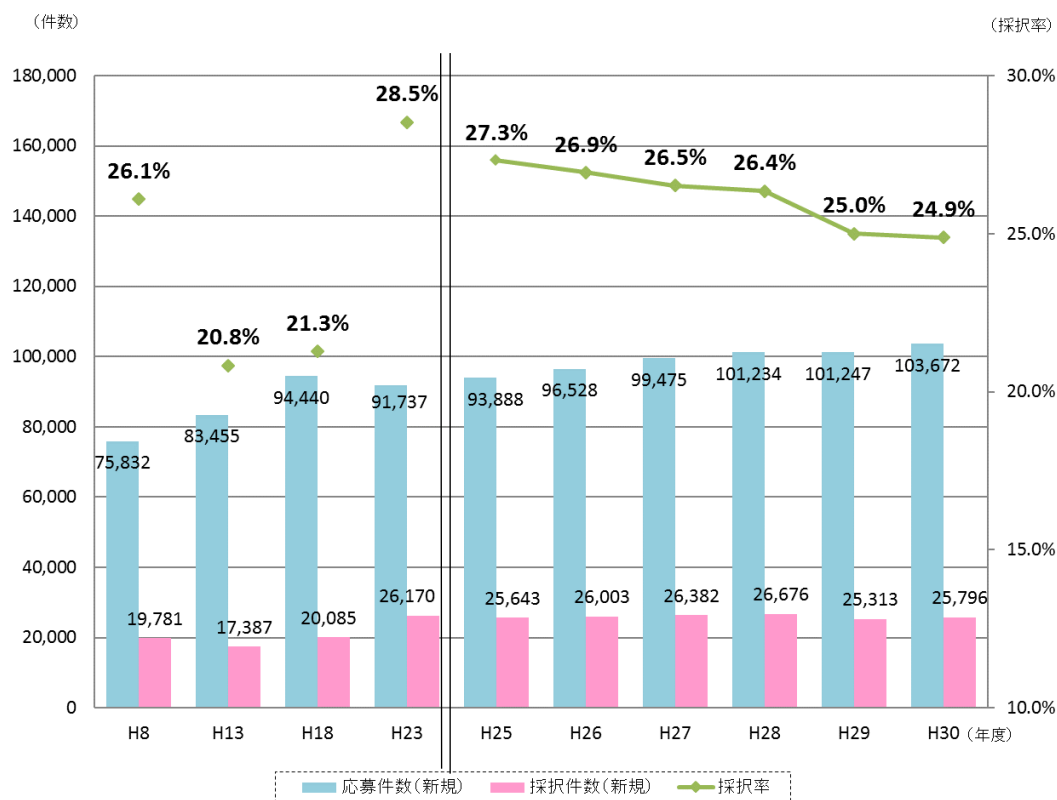
※2 挑戦的研究においては、種目の趣旨を踏まえた真に挑戦的な研究課題を支援する観点から、採択率の考え方等審査の進め方に関して「基盤研究」種目群と明確に異なる取扱いを行う。具体的には、制度の趣旨に沿った質の高い研究課題を選び抜くため、科研費の全体目標である採択率30%の目標に捕らわれず、採択件数を一定数に絞る。

【参照】「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1284543.htm)

※3 平成29年度配分結果において新規採択率は、「挑戦的研究」を除くと、27.6%。

【図 1 科研費の応募・採択件数、採択率の推移】（新規）



（注 1） H8、H13、H18、H23、H28 は、各第 1 期～第 5 期科学技術基本計画の初年度。

（注 2） 平成 30 年度は、「新学術領域研究（研究領域提案型）」の成果取りまとめ経費は除く。
（以降の図表においても同様）

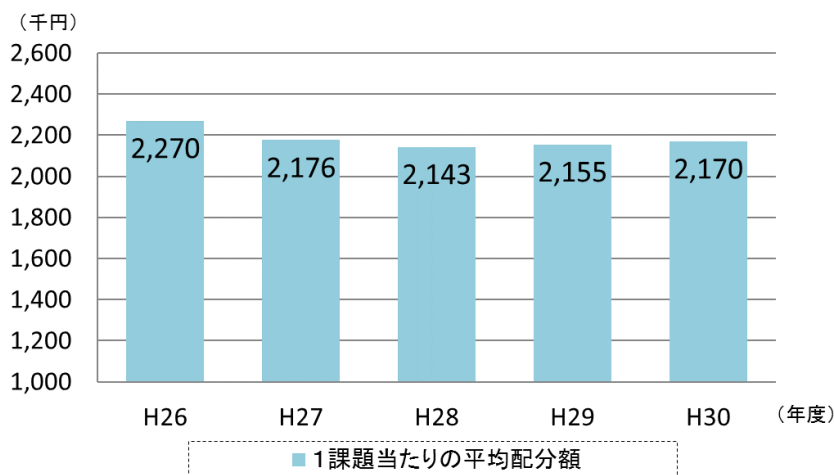
（注 3） 政策目標の新規採択率 30%に捕らわれず、研究種目の趣旨に沿った研究課題を採択している
「挑戦的研究」を除くと、新規採択率は 26.7%。

＜配分額＞

○ 平成 30 年度に採択された研究課題 7 万 5, 095 件（新規 2 万 5, 796 件、継続 4 万 9, 299 件）に対して配分された助成額は、2, 118 億円（直接経費 1, 629 億円、間接経費 489 億円）となっており、前年度より 2 億円（0. 1%）増加しています。直接経費と間接経費の割合は、10:3 となっています。

○ 新規採択分と継続分を合わせた 1 課題当たりの平均配分額（直接経費）は、217 万 0, 000 円となっており、前年度より 1 万 5, 000 円（0. 7%）増加しています。（図 2）。

【図 2 科研費の 1 課題当たりの平均配分額（直接経費）の推移】（新規＋継続）



【表2 科研費（補助金分・基金分）配分状況一覧（平成30年度 新規採択分__主な研究種目）】
※資料1-1-1から抜粋・加工

平成30年10月現在

研究種目	研究課題数		採択率（％）	配分額（千円）	1課題当たりの配分額	
	応募（件）	採択（件）			平均（千円）	最高（千円）
科学研究費	[101,247] 101,337	[25,313] 25,562	[25.0] 25.2	[64,317,621] 61,417,400 【 18,425,220 】	[2,541] 2,403	[141,500] 145,100
特別推進研究	[111] 105	[13] 12	[11.7] 11.4	[1,387,900] 1,123,500 【 337,050 】	[106,762] 93,625	[141,500] 145,100
新学術領域研究(研究領域提案型)	[5,908] 6,158	[996] 1,011	[16.9] 16.4	[6,482,521] 6,383,500 【 1,915,050 】	[6,509] 6,314	[129,100] 139,400
基盤研究	[54,739] 58,322	[15,429] 15,825	[28.2] 27.1	[39,865,900] 40,764,600 【 12,229,380 】	[2,584] 2,576	[89,600] 105,100
基盤研究(S)	[645] 704	[81] 80	[12.6] 11.4	[3,343,200] 3,279,800 【 983,940 】	[41,274] 40,998	[89,600] 105,100
基盤研究(A)	[2,567] 2,454	[636] 605	[24.8] 24.7	[7,157,300] 7,310,100 【 2,193,030 】	[11,254] 12,083	[32,000] 32,900
基盤研究(B)	[11,041] 11,577	[2,729] 2,965	[24.7] 25.6	[13,757,100] 15,170,200 【 4,551,060 】	[5,041] 5,116	[13,500] 12,800
基盤研究(C) * 1	[40,486] 43,587	[11,983] 12,175	[29.6] 27.9	[15,608,300] 15,004,500 【 4,501,350 】	[1,303] 1,232	[3,400] 3,200
挑戦的研究	[15,607] 12,634	[1,680] 1,508	[10.8] 11.9	[4,413,700] 3,832,100 【 1,149,630 】	[2,627] 2,541	[16,200] 17,500
挑戦的研究(開拓)	[1,116] 823	[94] 82	[8.4] 10.0	[643,900] 595,500 【 178,650 】	[6,850] 7,262	[16,200] 17,500
挑戦的研究(萌芽) * 1	[14,491] 11,811	[1,586] 1,426	[10.9] 12.1	[3,769,800] 3,236,600 【 970,980 】	[2,377] 2,270	[4,700] 4,500
若手研究 * 1、3	[—] 20,369	[—] 6,256	[—] 30.7	[—] 8,273,100 【 2,481,930 】	[—] 1,322	[—] 3,100
若手研究(A) * 2	[1,837] —	[433] —	[23.6] —	[3,277,700] — 【 — 】	[7,570] —	[18,100] —
若手研究(B) * 2	[19,271] —	[5,817] —	[30.2] —	[7,913,600] — 【 — 】	[1,360] —	[3,200] —
研究活動スタート支援	[3,774] 3,749	[945] 950	[25.0] 25.3	[976,300] 1,040,600 【 312,180 】	[1,033] 1,095	[1,500] 1,200
国際共同研究加速基金	[—] 2,335	[—] 234	[—] 10.0	[—] 673,300 【 201,990 】	[—] 2,877	[—] 8,900
国際共同研究強化(B) * 1、3	[—] 2,335	[—] 234	[—] 10.0	[—] 673,300 【 201,990 】	[—] 2,877	[—] 8,900
合 計	[101,247] 103,672	[25,313] 25,796	[25.0] 24.9	[64,317,621] 62,090,700 【 18,627,210 】	[2,541] 2,407	[141,500] 145,100

(注1) 「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」について掲載。

(注2) []内は、前年度直接経費を示す。

(注3) 【 】内は、間接経費(外数)。

(注4) 政策目標の新規採択率30%に捕らわれず、研究種目の趣旨に沿った研究課題を採択している「挑戦的研究」を除くと、新規採択率は26.7%。

(注5) * 1は、基金研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題当たりの配分額」欄には平成30年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注6) * 2は、平成30年度の新規募集なし。

(注7) * 3は、平成30年度から新規募集開始。

(注8) 四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

【表3 科研費（補助金分・基金分）配分状況一覧（平成30年度 新規採択＋継続分__主な研究種目）】
※資料1－1－2から抜粋・加工

平成30年10月現在

研究種目	研究課題数		配分額（千円）	1課題当たりの配分額	
	応募（件）	採択（件）		平均（千円）	最高（千円）
科学研究費	[151,734] 150,916	[75,563] 74,861	[162,824,914] 162,277,303 [48,683,191]	[2,155] 2,168	[172,000] 162,400
特別推進研究	[166] 160	[68] 67	[5,558,200] 5,447,500 [1,634,250]	[81,738] 81,306	[172,000] 162,400
新学術領域研究(研究領域提案型)	[7,555] 7,741	[2,643] 2,594	[21,799,821] 21,749,272 [6,524,782]	[8,248] 8,384	[129,100] 139,400
基盤研究	[87,530] 91,892	[48,119] 49,292	[101,986,403] 104,598,250 [31,379,475]	[2,119] 2,122	[94,600] 105,100
基盤研究(S)	[990] 1,045	[425] 421	[12,050,100] 12,075,400 [3,622,620]	[28,353] 28,683	[94,600] 105,100
基盤研究(A)	[4,167] 4,063	[2,220] 2,202	[18,471,700] 18,879,700 [5,663,910]	[8,321] 8,574	[32,000] 32,900
基盤研究(B)*1	[17,752] 18,059	[9,393] 9,402	[33,080,533] 35,319,050 [10,595,715]	[3,522] 3,757	[13,500] 12,800
基盤研究(C)*2	[64,621] 68,725	[36,081] 37,267	[38,384,070] 38,324,100 [11,497,230]	[1,064] 1,028	[3,400] 3,200
挑戦的萌芽研究*2、3	[4,949] 1,472	[4,949] 1,472	[4,590,400] 1,049,500 [314,850]	[928] 713	[2,300] 1,900
挑戦的研究	[15,607] 14,305	[1,680] 3,179	[4,413,700] 7,259,900 [2,177,970]	[2,627] 2,284	[16,200] 17,500
挑戦的研究(開拓)	[1,116] 917	[94] 176	[643,900] 1,102,400 [330,720]	[6,850] 6,264	[16,200] 17,500
挑戦的研究(萌芽)*2	[14,491] 13,388	[1,586] 3,003	[3,769,800] 6,157,500 [1,847,250]	[2,377] 2,050	[4,700] 4,500
若手研究*2、4	[—] 20,369	[—] 6,256	[—] 8,273,100 [2,481,930]	[—] 1,322	[—] 3,100
若手研究(A)*1、3	[2,874] 980	[1,459] 956	[6,878,400] 3,675,917 [1,102,775]	[4,714] 3,845	[18,100] 13,200
若手研究(B)*2、3	[28,353] 9,302	[14,875] 9,270	[15,823,970] 8,424,400 [2,527,320]	[1,064] 909	[3,200] 2,600
研究活動スタート支援	[4,700] 4,695	[1,770] 1,775	[1,774,020] 1,799,463 [539,839]	[1,002] 1,014	[1,500] 1,500
国際共同研究加速基金	[—] 2,335	[—] 234	[—] 673,300 [201,990]	[—] 2,877	[—] 8,900
国際共同研究強化(B)*4	[—] 2,335	[—] 234	[—] 673,300 [201,990]	[—] 2,877	[—] 8,900
合 計	[151,734] 153,251	[75,563] 75,095	[162,824,914] 162,950,603 [48,885,181]	[2,155] 2,170	[172,000] 162,400

(注1) 本資料は、平成30年度に採択された新規課題に既に採択されている継続課題を加え集計したもの。

(注2) 「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「学術研究支援基盤形成を除く」、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的萌芽研究」、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))」について掲載。

(注3) []内は、前年度直接経費を示す。

(注4) []内は、間接経費(外数)。

(注5) *1のうち、平成25～26年度採択課題は一部基金を措置しているため、「配分額」欄及び「1課題当たりの配分額」欄には平成30年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注6) *2は、基金研究種目であるため、「配分額」欄及び「1課題当たりの配分額」欄には平成30年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注7) *3は、継続課題のみ計上。

(注8) *4は、平成30年度から新規募集開始。

(注9) 四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

（Ⅱ）研究者の属性別の状況について（資料２）

＜女性研究者の状況＞

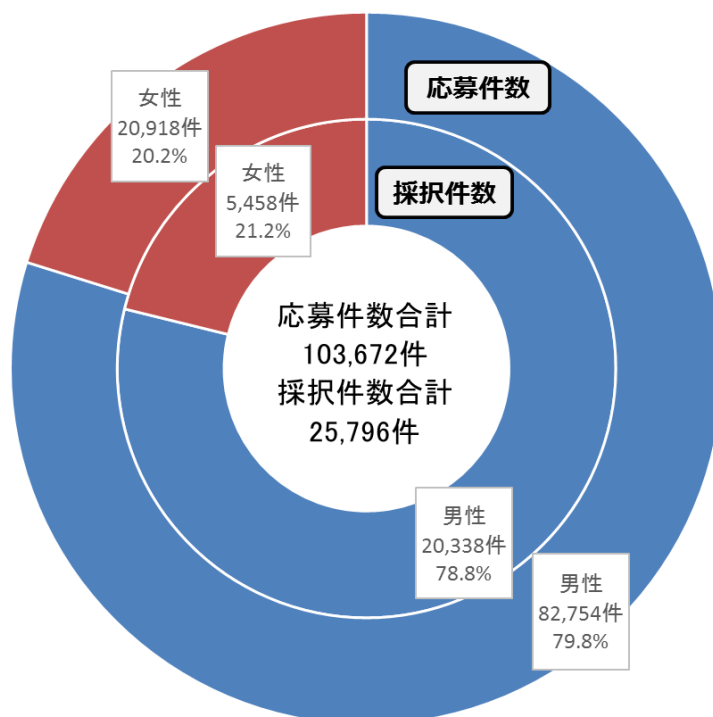
- 女性研究者に係る採択件数は、5,458件となっており、全体の21.2%を占めています（図3-1）。新規採択率は、男性が24.6%、女性が26.1%となっており、女性の方がやや高くなっています。

※日本の研究者に占める女性の割合は15.7%（大学に所属する研究者の場合26.6%）（平成29年度）

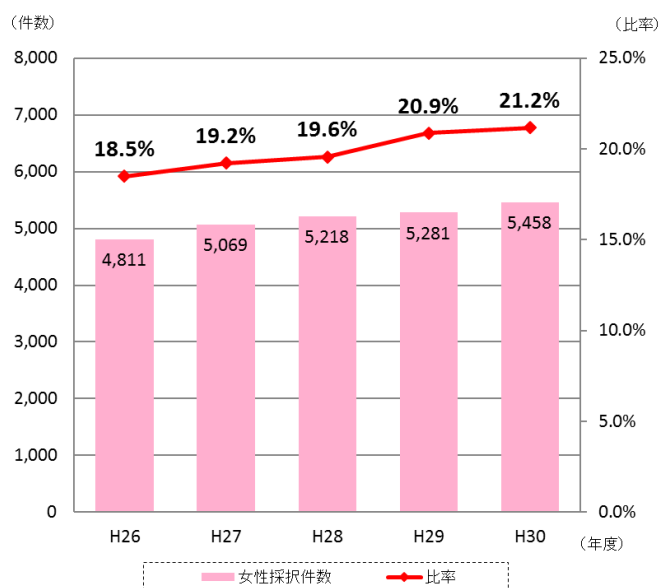
【出典：総務省統計局「科学技術研究調査報告」】

- 女性研究者の登録人数が増加する中で、女性研究者の採択件数・比率とも増加傾向にあり、採択件数は過去5年間で647件（13.4%）増加しています（図3-2及び図3-3）。

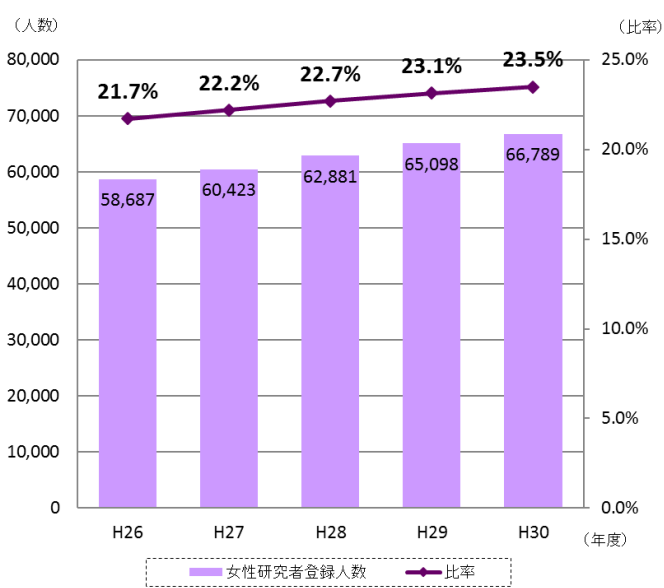
【図3-1 男女別 応募・採択の状況】（新規）



【図3-2 女性の採択件数・比率の推移】



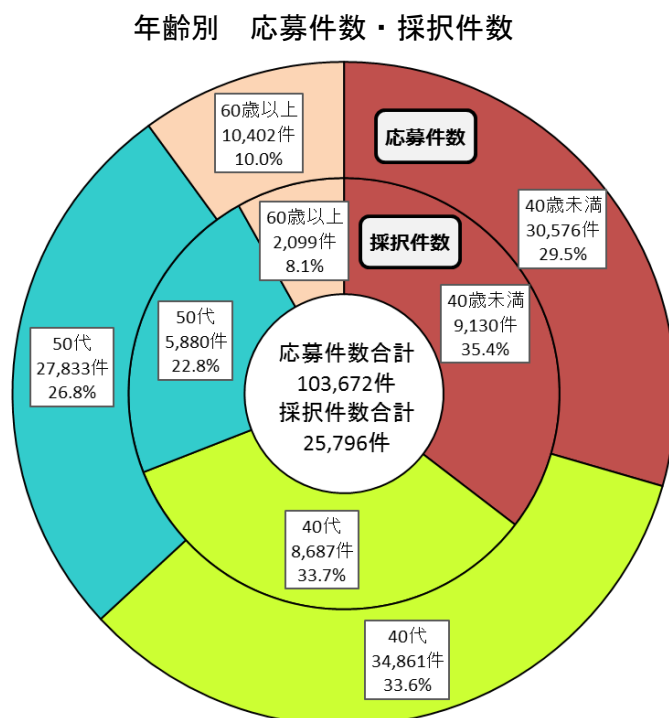
【図3-3 女性研究者登録人数・比率の推移】



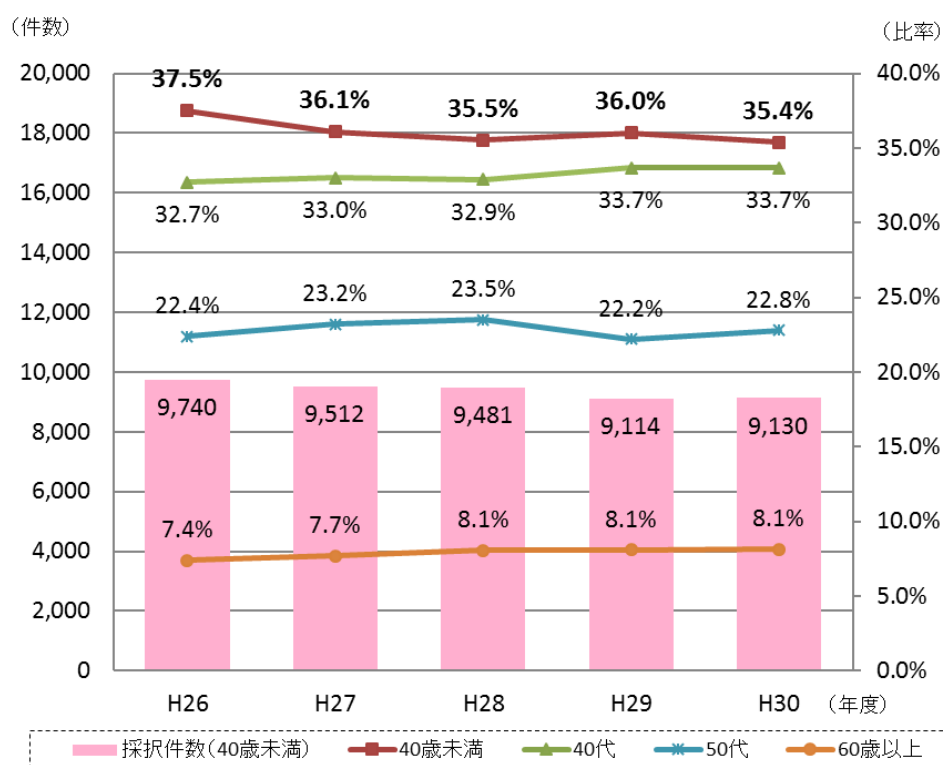
<40歳未満の研究者の状況>

- 40歳未満の研究者に係る採択件数は、全体の35.4%となっています。採択件数・比率は近年減少傾向にあります。年齢別の区分では40歳未満の割合が最も大きくなっています（図4）。
- 40歳未満の研究者の新規採択率は29.9%となっており、全体平均の24.9%を約5ポイント上回っています（図5）。

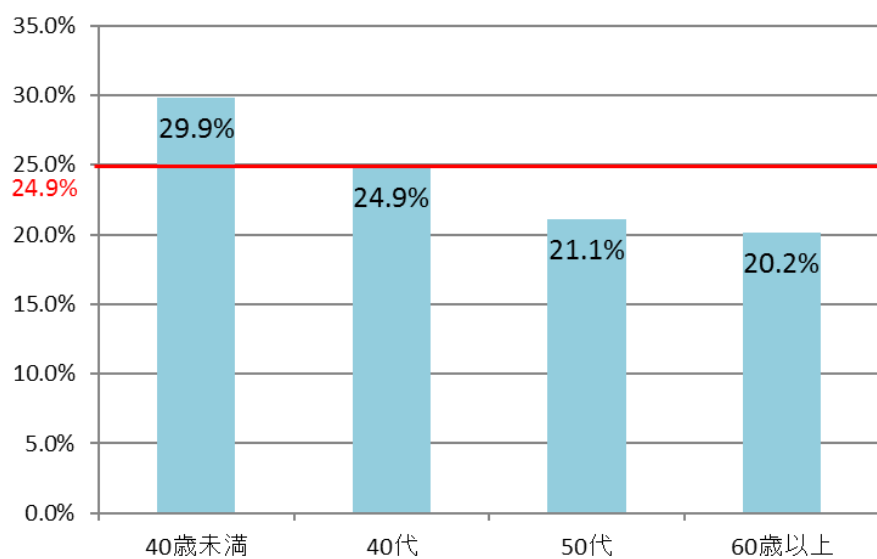
【図4-1 年齢別 応募・採択の状況】（新規）



【図4-2 40歳未満の研究者の採択件数・比率の推移】（新規）



【図5 年齢別 採択率の状況】（新規）

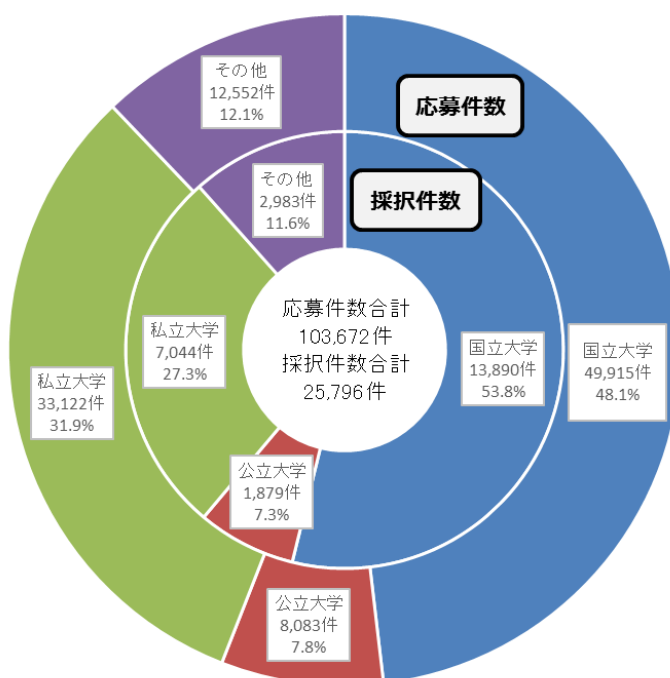


（Ⅲ）研究機関種別の状況について（資料３）

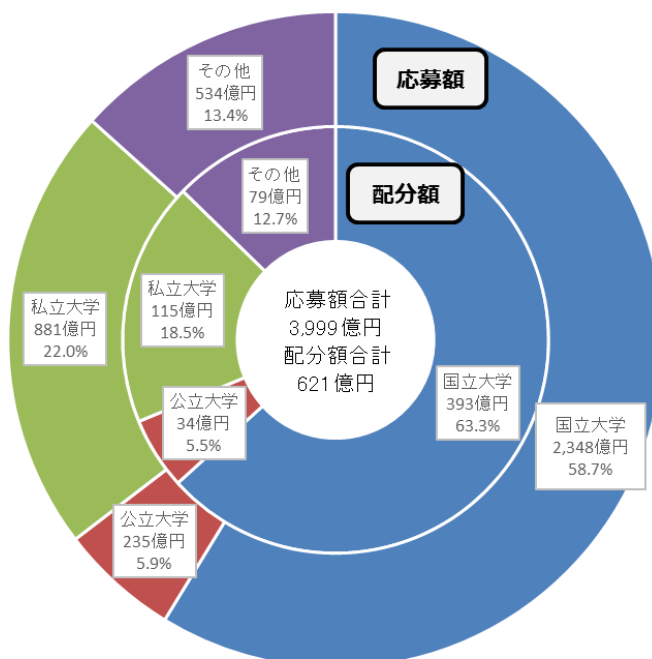
- 応募件数・採択件数及び応募額・配分額について、研究者が所属する研究機関種別の割合を見ると、昨年度と同様、国立大学、私立大学、その他（国立研究開発法人、大学共同利用機関法人、短期大学、高等専門学校 等）、公立大学の順となっています（図６）。

【図６ 研究者が所属する研究機関種別に見た応募・採択の状況（件数・額）】（新規）

研究機関種別の応募件数・採択件数



研究機関種別の応募額・配分額（直接経費）



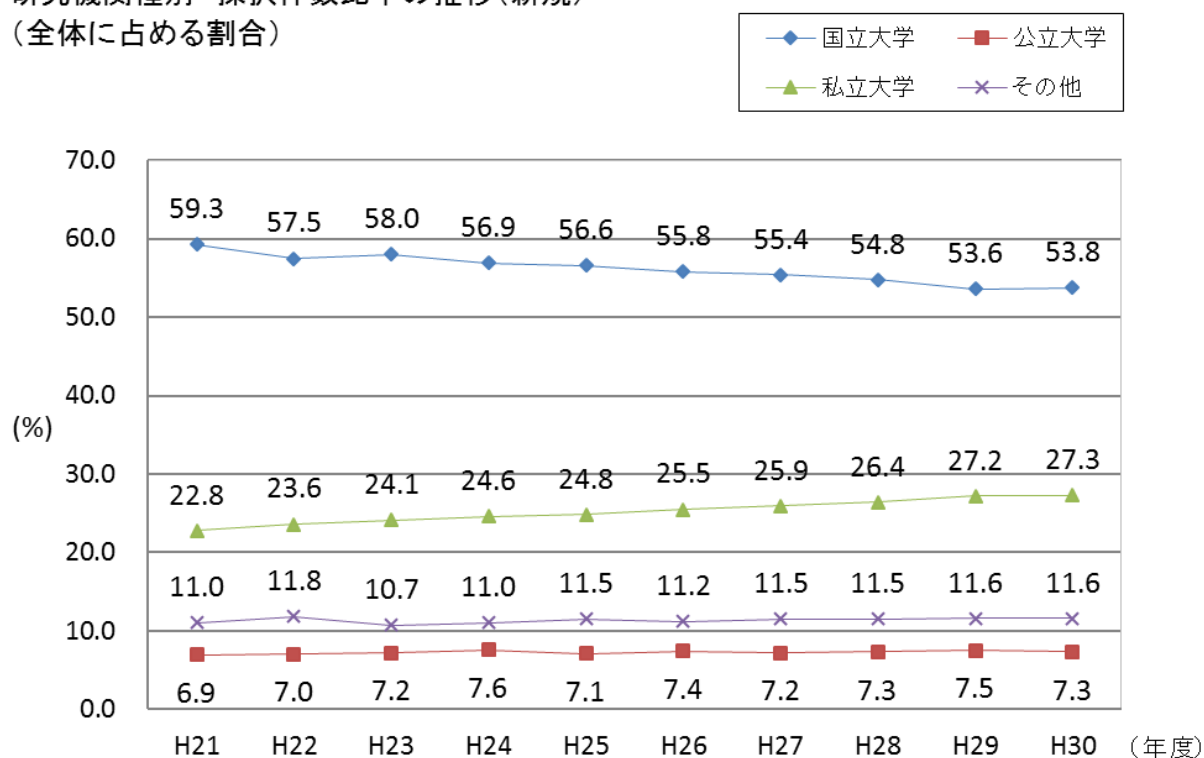
（注１）研究代表者が所属する機関により整理。

（注２）四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

- 研究機関種別の比率は、長期にわたり私立大学の拡大傾向が続いています。最近 10 年間の新規の採択件数比率の推移について見ると、私立大学が占める割合は 22.8%から 27.3%に上昇する一方、国立大学は 59.3%から 53.8%に低下し、国・私立大学間の差は縮小（約 10 ポイント減少）しています（図 7）。

【図 7 研究者が所属する研究機関種別に見た採択件数比率の推移】（新規）

研究機関種別 採択件数比率の推移（新規）
（全体に占める割合）



- 研究者登録人数と新規応募件数との比率について見ると、国立大学の比率が最も高く、約 6 割となっています（表 4）。

【表 4 研究者登録人数と科研費への応募件数】

区 分	研究者登録人数 (①)	新規応募件数 (②)	比率 (②/①)
国立大学	85,589 人	49,915 件	58.3%
公立大学	18,659 人	8,083 件	43.3%
私立大学	121,921 人	33,122 件	27.2%
その他	58,151 人	12,552 件	21.6%
計	284,320 人	103,672 件	36.5%

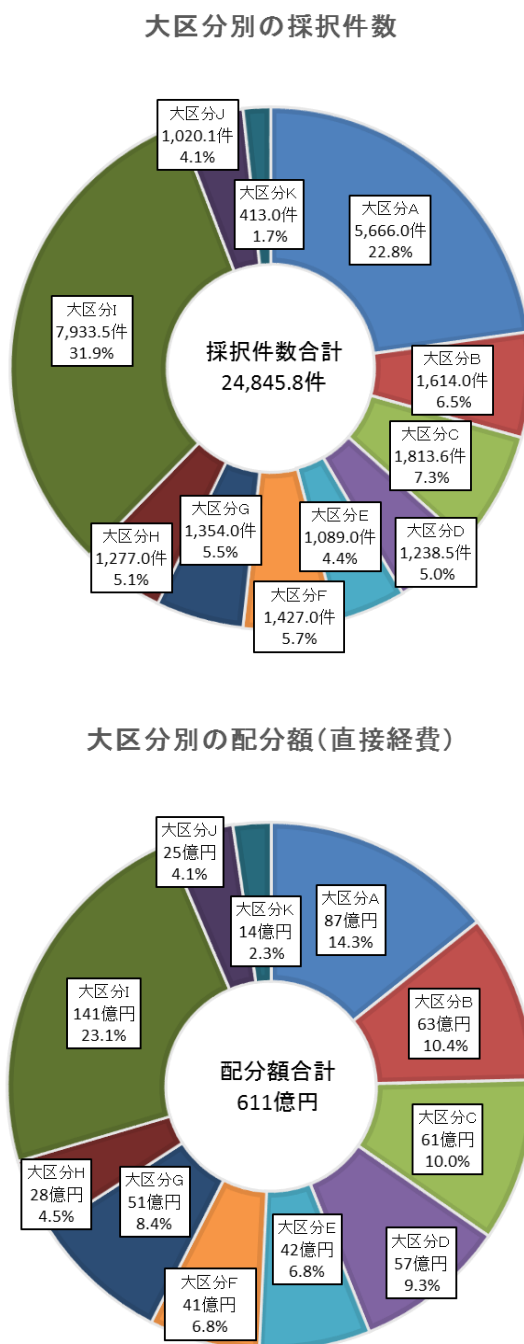
（注）「研究者登録人数」は平成 29 年 11 月時点での所属により分類。

(Ⅳ) 審査区分別の状況について（資料４）

○ 大区分別の採択件数は、多い順に大区分Ⅰが31.9%、大区分Ⅰが22.8%、大区分Ⅰが7.3%となっています。一方で、大区分別の配分額は、多い順に大区分Ⅰが23.1%、大区分Ⅰが10.4%、大区分Ⅰが10.0%となっています。

○ それぞれの大区分に含まれる中区分については表５のとおりです。

【図８ 大区分別の採択件数・配分額】（新規）



（注１）対応する大区分が複数ある中区分及び小区分は、採択件数、配分額を按分して集計している。

（注２）「特別推進研究」、「新学術領域研究（研究領域提案型）」（計画研究及び公募研究）、「基盤研究」（特設分野研究を除く）、「挑戦的研究」（特設審査領域を除く）、「若手研究」及び「国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（Ｂ）」）について分類。（「研究活動スタート支援」は個別の審査区分により審査をしているため含まない。）

（注３）四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。

【表 5 審査区分表】

大区分A	
	中区分名
	思想、芸術およびその関連分野
	文学、言語学およびその関連分野
	歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野
	地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野
	法学およびその関連分野
	政治学およびその関連分野
	経済学、経営学およびその関連分野
	社会学およびその関連分野
	教育学およびその関連分野
	心理学およびその関連分野

大区分B	
	中区分名
	代数学、幾何学およびその関連分野
	解析学、応用数学およびその関連分野
	物性物理学およびその関連分野
	プラズマ学およびその関連分野
	素粒子、原子核、宇宙物理学およびその関連分野
	天文学およびその関連分野
	地球惑星科学およびその関連分野

大区分C	
	中区分名
	材料力学、生産工学、設計工学およびその関連分野
	流体力学、熱工学およびその関連分野
	機械力学、ロボティクスおよびその関連分野
	電気電子工学およびその関連分野
	土木工学およびその関連分野
	建築学およびその関連分野
	航空宇宙工学、船舶海洋工学およびその関連分野
	社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野

大区分D	
	中区分名
	材料工学およびその関連分野
	化学工学およびその関連分野
	ナノマイクロ科学およびその関連分野
	応用物理物性およびその関連分野
	応用物理工学およびその関連分野
	原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野
	人間医工学およびその関連分野 *

大区分E	
	中区分名
	物理化学、機能物性化学およびその関連分野
	有機化学およびその関連分野
	無機・錯体化学、分析化学およびその関連分野
	高分子、有機材料およびその関連分野
	無機材料化学、エネルギー関連化学およびその関連分野
	生体分子化学およびその関連分野

大区分F	
	中区分名
	農芸化学およびその関連分野
	生産環境農学およびその関連分野
	森林園科学、水圏応用科学およびその関連分野
	社会経済農学、農業工学およびその関連分野
	獣医学、畜産学およびその関連分野

大区分G	
	中区分名
	分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野
	細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野
	個体レベルから集団レベルの生物学と人類学およびその関連分野
	神経科学およびその関連分野

大区分H	
	中区分名
	薬学およびその関連分野
	生体の構造と機能およびその関連分野
	病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野

大区分I	
	中区分名
	腫瘍学およびその関連分野
	ブレインサイエンスおよびその関連分野
	内科学一般およびその関連分野
	器官システム内科学およびその関連分野
	生体情報内科学およびその関連分野
	恒常性維持器官の外科学およびその関連分野
	生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野
	口腔科学およびその関連分野
	社会医学、看護学およびその関連分野
	スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野
	人間医工学およびその関連分野 *

大区分J	
	中区分名
	情報科学、情報工学およびその関連分野
	人間情報学およびその関連分野
	応用情報学およびその関連分野

大区分K	
	中区分名
	環境解析評価およびその関連分野
	環境保全対策およびその関連分野

* 印は複数の大区分に表れる中区分